

# 第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ 子ども支援フォーラム ～子どもの声が地域・社会をかえる～ 11月26日(土) 27日(日) 三重県総合文化センター

全国のチャイルドラインに関わる人々が一堂に集うフォーラムです。三重県では子ども支援団体や行政、企業が集まり、三重県のすべての自治体に「子ども権利条例」を制定することをめざしています。

みんなできてね!!

11月26日(土) 13:00~17:00

- ・オープニング
- ・基調報告 チャイルドライン支援センター代表理事 清川輝基さん
- ・記念講演 関西学院大学教授・NEWS ZEROメインキャスター 村尾信尚さん
- ・シンポジウム 「子ども支援のネットワークへの挑戦」
- ・交流会 18:00~20:00  
モクモク手作りファームの料理を食べながらの交流

11月27日(日) 10:00~16:00

- ・分科会 10:00~15:00
  - ① 子ども支援ワークショップ  
「ゆらぎを語り・聴きあうことの学び」
  - ② ~組織とは何か~
  - ③ 講演&事例発表  
「とぎれのない子ども支援とは? ~行政とNPOの連携による子ども支援」  
三重県中勢児童相談所所長 鈴木聡さん
  - ④ 講演 子どもの権利条約ネットワーク  
山梨学院大学法科大学院教授 荒巻重人さん
  - ⑤ 講演&事例発表&グループディスカッション  
「権利主体は子ども!?~支援者としてここははずせない~」NPO 法人チャイルドライン MIE  
ネットワーク代表理事 田部真樹子さん
  - ⑥ 子ども委員会 「ホントの自由を手に入れよう」
  - ⑦ 実践報告・シンポジウム  
「子ども支援のネットワークづくりとは?」
  - ⑧ 三重県子ども条例ワークショップ  
~ぼくたちの子ども条例~
- ・全体会 15:15~16:00

参加費: 2日通し2,500円・1日のみ1,500円(別途テキスト代が必要な分科会もあります)交流会4,000円

※内容は変更される場合があります。



第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ  
子ども支援フォーラム  
～子どもの声が地域・社会をかえる～

7月13日(水)第8回実行委員会が終わりました。今回は、全国に発信できるよう当日の内容を詰めました。11月26日(土)には、記念講演に NEWS ZERO メインキャスターの村尾信尚さんを迎え、基調報告・シンポジウム・交流会が予定されています。27日(日)には8つの分科会に分かれチャイルドライン関係者だけでなく、子どもに係わる支援者の方の参加を呼びかけます。「子ども支援のシステム化」「子ども支援のネットワーク」「子ども支援の質の向上」「子ども支援の社会化」をキーワードに進められます。

当日だけでなく、地域での研修会も考えています。松阪では、すでに始まっている、「子どもの権利を考える市民委員会」「子ども委員会」とも連携して地域の方と「権利ってどんなこと?」をテーマに考え合いたいと思います。

## (特) 松阪子どもNPOセンターは 子育て・子育てをささえます

興味を持ったら、参加したいと思ったら、たのしそうだと思ったら、もっと知りたいと思ったら、手伝いたいと思ったら、すべてのお問い合わせは、

《特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター》

住所 〒515-0043 松阪市下村町1115 Tel・Fax 0598-20-1511  
ホームページ <http://www.mknpn.jp/> eメール [info@mknpn.jp](mailto:info@mknpn.jp) 月~金 10:00~17:00

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター

Summer 第111号

# こども21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」をすごすために

発行 2011年8月1日

〒515-0043 松阪市下村町1115

TEL・FAX 0598-20-1511

ホームページ <http://www.mknpn.jp/>

Eメール [info@mknpn.jp](mailto:info@mknpn.jp)

7月13日絵本の読み聞かせ&ほっとカフェの様子です。  
今回は8組の参加がありました。



夏休みが始まりました。子どもたちが外で遊んでいる姿はあまり見かけませんが、どんな遊びをしているのでしょうか。仲間と遊ぶことは創造する力、体力、自分の意見を表現する力、人とコミュニケーションをとる力、決断する力、がまんする力、協調する力など生きていく上で必要な力をつける場になります。この期間にいっぱい遊んで、たくさんの経験をしてほしいと思います。また、家庭や地域の中で子どもたちが長い時間を過ごすこの時期、大人にとってはいつもより忙しく感じることもあると思いますが、子どもからの信号を見落とさず、子どもの声を聴いてほしいと思います。

10月15日(土)に行う「2011 いっしょに遊ぼう子育てフェスタ in 松阪」の中で、子どもフリーマーケットをします。今年度は子ども実行委員を募集し、出展内容などすべてのことを子どもたちと一緒に考え決めていきます。考えていく中で、いろいろなことにぶつかりますが、ぶつかったところでまたみんなで考えることを繰り返しています。子どもたちは真剣に考え、意見を言い、違う意見にも耳を傾けながら、話し合っています。当日に向けてどのようなフリーマーケットになるか、また子どもたちの中にもどのような変化が見られるかとても楽しみであり、関わる私たち大人にとっても自分を問われる現場になっています。

理事長 塩谷 明美

子どもが  
すこやかに  
育つことを  
願っているはずなのに



# 子どもの育ちを **ジャマ** していませんか。

子どもが生まれてきたとき、それだけで無条件にうれしくて幸せに思っていたのに、子どもの成長とともに私たち大人は子どもたちに条件や目標をクリアすることを期待するようになっていないのでしょうか。ジャマをする気なんてないのに、大人って子どもの育ちをジャマしてるかも。

## たとえば

「遊んでいいよ」「これで遊びなさい」「それで遊ぶのはダメ」とすぐ言う

「もう、お母さん死にたい」と子どもに言っちゃう

15階建てのマンションの15階に住んでいてあんまり外出しないかも・・・

子どもだけで留守番させてる

「あなたはセンスがないんだから、こっちにきなさいよ」と言っていつも選んであげる

遊んでいる子どもの手からゲーム機を取り上げて電源を切った

国立大学以外への進学は認めない

「あーあ、あなたなんか産まなきゃよかった!」と言ってやった

朝食を作らない

暴力シーンのあるテレビゲームを子どものすぐ隣でいつもしてる

実は・・・

ここにあげた例は、場合によっては虐待につながる可能性があります。  
どれも、子育てをしているとすぐ身近にある出来事だと思いませんか？

大人がしつけどと思っていることが、子どもにとって不適切な扱いになっていませんか。子どもへの虐待は、暴力だけではありません。なにげない大人の行動や言葉で、子どもの顔色が変わったり口を閉ざしてしまった時がありませんか？そんな時、子どもの側に立ってみてください。また、子どものためをと思って言ったりしたりしていることが、子どもの育つ力を奪っていないでしょうか。子どもは失敗し、たくさんの経験を積み上げながら成長します。子ども自らが育つ力を信じ、子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利が守られる社会にしていきたいですね。

## 子どもの権利条例をつくらう

★7月13日山中光茂市長に  
「松阪市子どもの権利条例」制定を求める要望書を提出しました。

わたしたちはさまざまな事業を通して、家庭が抱えている問題や養育者自身を感じているプレッシャーの下に子どもたちが置かれている厳しい現状を感じています。子どもたちがありのまま、豊かに育つためにこの条例が必要であると考えています。要望書を受け取った山中市長から「期限を区切って検討したい。作るだけならすぐにできるが、それでは意味がない。市民に意識を持ってもらう手法を積み上げたい」「子どもにも参画してもらい、学校現場を巻き込みながら前向きに検討したい」との意向を聞くことができました。条例作りにむけて前進です。

